

都市再生整備計画 事後評価シート  
東海道原宿地区

平成23年3月

静岡県沼津市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県		市町村名	沼津市		地区名	東海道原宿地区			面積	304ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	610.5百万円	国費率	0.415					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 道路((都)原駅町沖線道路改良事業)、地域生活基盤施設(沼川新放水路広場)、高質空間形成施設(緑化(桜並木整備)) 事業活用調査(道の駅施設機能検討調査)、事業活用調査(白隠のみち整備基本計画策定事業)										
	当初計画から削除した事業		基幹事業	高次都市施設(観光交流センター)		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	新たに追加した事業		基幹事業	①道路(市道2221号線他)、②地域生活基盤施設(情報板)、③地域生活基盤施設(広場・帯笑園)、④高質空間形成施設(カラー舗装・街灯)		地元の説明会等を行って建設への理解を得る努力をしているが、用地の確保が困難となったことから、本計画期間での事業の推進、着工が不可能となったため。			目標の達成に対して影響があり、指標3「避難地の空白地帯の解消面積比」の目標値を下方修正した。					
	交付期間の変更		当初	平成18年度～平成22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		地元の説明会等を行って建設への理解を得る努力をしているが、用地の確保が困難となったことから、本計画期間での事業の推進、着工が不可能となったため。			目標の達成に対して影響があり、指標3「避難地の空白地帯の解消面積比」の目標値を下方修正した。				
			変更	-			地域資源の活用及び安全・安心なまちづくりを推進するため。			目標の達成につながるが、数値目標は据え置く。				
						①地域創造支援事業(沼津市白隠のみち整備地区沿道緑化推進事業)、②地域創造支援事業(原駅前駐輪場 防犯カメラ設置工事)、③事業活用調査(事業効果分析)			地域資源の活用及び安全・安心なまちづくりを推進するため。			①～②:目標の達成につながるが、数値目標は据え置く。 ③:影響なし。		
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	原駅の年間乗降客	人/年	2,000,000	H15	2,100,000	H22	2,033,780	1,981,875	×	あり	アクセス環境の改善、地域資源や歴史的資源の有効活用による交流人口の増加等によって、一時増加傾向にあったものの、近隣大学の学生数の減少等によって、再び減少に転じている。	平成24年4月	
	指標2	地区内イベント参加者数	人	30,000	H16	35,000	H22	33,096	33,070	△	あり	目標値は達成しなかったものの、アクセス環境の改善、まちづくりへの住民参加の促進、地域資源の有効活用等によって、計測を行った5つのイベントの内4つのイベントの参加者が増加している。	平成23年4月	
	指標3	避難地の空白地帯の解消面積比	%	70	H17	90	H22	83	83	△	あり	沼川新放水路広場の整備によって空白地帯の解消が進んだものの、白隠のみち事業地内広場の整備が計画期間中に行えなかったため、目標値は達成しなかった。	平成24年4月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	地域資源・歴史的資源の活用への実感度	%	-	-				66				-	
	その他の数値指標2	地区内で開催される全てのイベントの参加者数	人	39,633	H16				43,593				平成23年4月	
	その他の数値指標3	安心・快適に暮らせる環境整備への実感度	%	-	-				81				-	
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>白隠のみち整備事業において、地区の住民等が参加した協議会による官民協働のまちづくりが進み、参加者のまちづくりへの意識が高まっている。</li> <li>白隠のみち整備区域は、インターロッキング舗装や自然石の整備によって、地域の歴史に合った落ち着いた感じのあるまち並みの形成が進んでいる。</li> </ul>													
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等							
	モニタリング	モニタリングを実施し、計画の変更状況、実施事業の進捗状況、指標の達成状況の確認を行った。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 他地区の都市再生整備計画及び本地区の次期計画においても適宜モニタリングを実施していく。							
	住民参加プロセス	白隠のみち整備協議会で検討した内容を基に白隠のみち整備事業(舗装・防犯灯の修景、沿道緑化の推進等)を実施した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後についても、白隠のみち整備事業に対する整備方針や合意形成が円滑に進むように、「白隠のみち整備協議会」での取り組みへの支援を継続して、官民協働によるまちづくりを進めていく。							
持続的なまちづくり体制の構築	平成17年度に設立された「白隠のみち整備協議会」において、地域の歴史的資源を活用した歴史性あふれる快適な歩行空間・沿道景観の創出などを検討・提案しながら、官民協働のまちづくりを進めている。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後についても、白隠のみち整備事業に対する整備方針や合意形成が円滑に進むように、「白隠のみち整備協議会」での取り組みへの支援を継続して、官民協働によるまちづくりを進めていく。								

## 様式2-2 地区の概要

### 東海道原宿地区(静岡県沼津市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
原の歴史と資源を生かした地域活性化と安全・快適なまちづくり ・原の歴史的資源と地域固有の資源を有効に活用して、地域のにぎわいを再生する。 ・新たな来訪者の誘引により地域の活性化を促進するとともに交流の場を創出する。 ・みんなが安心して快適に暮らし続けられる環境を整備する。	原駅の年間乗降客	単位: 人/年	2,000,000	H15	2,100,000	H22	1,981,875	H22
	地区内イベント参加者数	単位: 人	30,000	H16	35,000	H22	33,070	H22
	避難地の空白地帯の解消面積比	単位: %	70	H17	90	H22	83	H22
	地域資源・歴史的資源の活用への実感度	単位: %	-	-	-	-	66	H22
	地区内で開催される全てのイベントの参加者数	単位: 人	39,633	H16	-	-	43,593	H22
	安心・快適に暮らせる環境整備への実感度	単位: %	-	-	-	-	81	H22



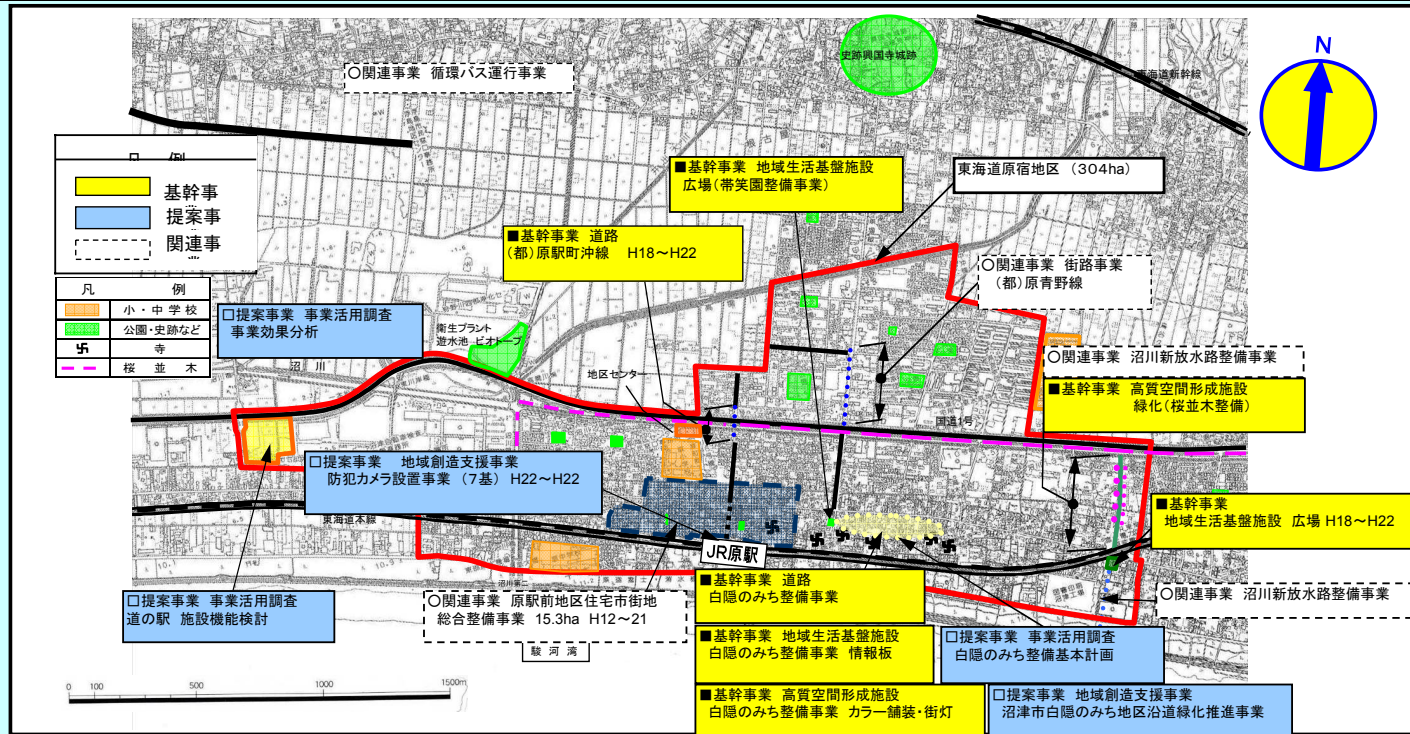
原駅町沖線改良事業



帯笑園整備事業(イメージ)



白隠のみち整備事業 情報板(イメージ)



白隠のみち地区沿道緑化推進事業



白隠のみち整備事業 街灯



白隠のみち整備事業 舗装

#### まちの課題の変化

- ・白隠のみち整備事業、帯笑園整備事業、沼川沿いの桜並木植樹によって、観光やまちづくりへの地域資源及び歴史的資源の活用や地区の歴史に相応しいまち並みの形成が進み、来訪者の増加も見られるものの、地域の活性化までは至っていない。
- ・関連事業の住宅市街地総合整備事業の実施によって、原駅前に良好な住宅地が形成された。
- ・白隠のみちの来訪者の交流拠点として想定していた「白隠のみち事業地内広場」の整備が用地確保の関係等で出来なかったが、沼川新放水路広場整備事業によって、周辺住民が交流できる広場が整備された。
- ・(都)原駅町沖線の整備、沼川新放水路広場の整備、関連事業の(都)原青野線の整備及び住宅市街地総合整備事業の実施によって、地区の南北をつなぐ道路の整備、狭隘道路の改善、歩道の設置、災害時の避難地が新設がはかられ、交通の円滑化、防災性の向上が進んだ。しかし、引き続き沼川流域の治水対策や周囲に避難地が無い地域(避難地の空白地帯)の解消を行っていく必要がある。

#### 今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・引き続きまち並みの形成に資する事業を実施すると共に、景観計画において白隠のみち地区を景観形成重点地区に位置付け、地区住民との協働による良好なまち並みの形成をはかっていく。
- ・整備した広場でのイベント開催や、来訪者や住民同士が交流できるイベントを今後も継続的に開催できるよう、後方支援を行う。
- ・整備した住宅地や広場が有効に活用されると共に災害時等に機能するよう、地区住民を中心とした維持・管理活動を促し、支援を行っていく。
- ・地域資源及び歴史的な資源の活用をさらに進めると共に、PRを強化し、さらなる来訪者の誘引をはかっていく。
- ・地区の中核となる施設の整備や観光動線上に広場の整備を行い、来訪者の交流を促す。
- ・沼川流域の治水対策及び避難地の空白地帯の解消をはかっていく。